

7つのしるし



ヨハネの福音書 4:46～53

4:46 イエスは再びガリラヤのカナに行かれた。そこは、かつて水をぶどう酒にされた所である。さて、カペナウムに病気の息子がいる王室の役人がいた。

4:47 この人は、イエスがユダヤからガリラヤに来られたと聞いて、イエスのところへ行き、下って来て息子をいやしてくださるよう願った。息子が死にかかっていたからである。

4:48 そこで、イエスは彼に言われた。「あなたがたは、しるしと不思議を見ないかぎり、決して信じない。」

4:49 その王室の役人はイエスに言った。「主よ。どうか私の子どもが死なないうちに下って来てください。」

4:50 イエスは彼に言われた。「帰って行きなさい。あなたの息子は直っています。」その人はイエスが言われたことばを信じて、帰途についた。

4:51 彼が下って行く途中、そのしもべたちが彼に出会って、彼の息子が直ったことを告げた。

4:52 そこで子どもがよくなった時刻を彼らに尋ねると、「きのう、七時に熱がひきました。」と言った。

4:53 それで父親は、イエスが「あなたの息子は直っている。」と言われた時刻と同じであることを知った。そして彼自身と彼の家の者がみな信じた。

7つの神性宣言 エゴ・エイミ

1. 「わたしはいのちのパンです」 ヨハ6:35

モーセが与えたパンと自分が与えるパンとの対比



2. 「わたしは世の光です」 ヨハ8:12

光と闇の対比



3. 「わたしは羊たちの門です」 ヨハ10:7

盗人と羊の門の対比

4. 「わたしは良い牧者です」 ヨハ10:11

良い牧者と悪い牧者の対比



5. 「わたしはよみがえりです。いのちです」

いのちと死の対比 ヨハ11:25

6. 「わたしは道であり、真理であり、いのちです」

ヨハ14:6

「迷子の状態、無知な状態、死んだ状態」と「道、真理、いのち」の対比

7. 「わたしはまことのぶどうの木」

ヨハ15:1



キリストに留まることと、離れることの対比

7つのしるし

1. 水を芳醇なぶどう酒に変えた奇蹟

ヨハネ2:1～11



それで、弟子たちはイエスを信じた。

2. 役人の息子のいやし ヨハネ4:43～52

そして彼自身と彼の家の者がみな信じた。



3. 38年間病気だった人のいやし (ベテスダの池)

ヨハネ5:1～18

これよりもさらに大きなわざを子に示されます。

それは、あなたがたが驚き怪しむためです。

4. 五千人の給食の奇蹟 ヨハネ6:1～15



「まことに、この方こそ、世に来られるはずの預言者だ。」

5. ガリラヤ湖上の歩行の奇蹟 ヨハネ6:16～21

「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。」



6. 生まれつきの盲人のいやし ヨハネ9:1～41

彼は言った。「主よ。私は信じます。」そして彼はイエスを拝した。



7. ラザロの生き返りの奇蹟

ヨハネ11:1～45

イエスがなさったことを見た多くのユダヤ人が、イエスを信じた。



質の支配者

1. 水を芳醇なぶどう酒に変えた奇蹟

6つの水がめに水を満たすという事は、人間的行為に見えてもなすべきことをせよ、と考えられる。

また霊的には、空の器にみことばの水を満たせと取れる。すると、聖霊の恵みによって、それが最良のぶどう酒になる。すなわち、みことばによって、十字架からいのちがあふれる事になる。

距離・空間の支配者

2. 役人の息子のいやし

「2番目のしるし」として、距離を越えてのいよしの奇蹟が挙げられている。このガリラヤの役人は自分の息子が死にそうなので、イエス様のうわさだけを聞いて、カペナウムから二日かかりでカナヘやって来た。

イエス様は行かなかったが、彼にことばを与え、それを彼は信じた。するとその時刻にいやされていた。

イエス様のことばは距離によらず権威があり、それに御霊が遍在性をもって働く事があかしされている。

そして、時刻と状況のはっきりした確認によって彼の家族の者全員が信じたのである。

時の支配者 永遠の現在のお方

3. 38年間病気だった人のいやし

なんと38年もの間病気で、彼の人生は病気と共にあった。この場合、この人の病気は彼の罪が原因であり、このいよしは罪からの解放を兼ねている。しかし、ついに神の時が来て、主の方から語りかけられた。そして、彼の想いと全く異なるイエス様のことばに従う事によって、いとも簡単に、瞬間的にいやされてしまったのである。

量の支配者

4. 五千人の給食の奇蹟

人々がここに集まったのは、イエス様のしるしと不思議を見たからであり、この大いなる奇蹟の後にイエス様を探したのは、彼らが満腹したからであった。イエス様ご自身がいのちのパンであり十字架を暗示する行為でもあった。

自然法則の支配者

5. ガリラヤ湖上の歩行の奇蹟

イエス様が弟子たちに、「恐れるな。」と言われた。恐れは信仰の歩みにおいて最大の敵である。

敵の霊ばかり見ているとバランスを崩し、否定的な信仰や逆の信仰になってサタンに翻弄される危険がある。100%主だけを見て従うことが重要

運命の支配者

6. 生まれつきの盲人のいやし

苦しみの現実にあぶつかるとき、多くの人がこれはなにかの罰ではないか、のろいではないかと考える。ところがイエスの視点は、全く違った視点からの答えであった。それは「この人が生まれつき盲人なのは、神のわざがこの人に現われるため」。過去ではなく、未来に視点を向けている。

「神のわざがあらわされるため」にはひとつの条件がある。それはイエスの言われることをそのまま信じることである。

死の支配者

7. ラザロの生き返りの奇蹟

(1) 神の栄光が現わされるため

(2) よみがえりの信仰を確信させるため

第一の目的である「神の栄光があらわされるため」というのは、第一～第七のすべてのしるしの目的でもあり総括的出来事とも言える。

死んだラザロをよみがえらせることによって、人々がイエスのうちに神の力を認めて、多くの人々がイエスを信じるようになる、そのことによって神の栄光があらわされるというのが神のご計画であり、目的であったと思われる。

もう一つは「わたしを信じる者は、死んでも生きる」とイエスが言われたように信じる者に復活の希望と確信を与えるため。